

用語辞典〔第2版〕集録用語改訂

1) 新規採用用語

(P30)

アルテピリン C [Artepillin C] $C_{19}H_{24}O_3$, 分子量 300.39。ブラジル南東部で採取されるプロポリスは、グリーンプロポリスとして知られ、そのエタノール抽出物に種々の桂皮酸誘導体を含む。アルテピリン C はグリーンプロポリスの代表的な含有成分で、起源植物である *Baccharis dracunculifolia* (キク科) の含有成分でもある。エタノール抽出物中の約 5~11% を占めている。様々な薬理活性が知られ、抗菌性や抗炎症性、抗腫瘍活性などの報告がある。最近では核内受容体 PPAR γ のアゴニスト活性とベージュ脂肪細胞への誘導作用が報告されている。

(P127)

カフェ酸フェネチルエステル [caffeic acid phenethyl ester: CAPE] $C_{17}H_{16}O_4$, 分子量 284.31。温帯地域で黒ポプラ (*Populus nigra*) を起源植物とするプロポリス (ポプラ型プロポリス) はフラボノイドアグリコン (フラボンおよびフラバノン) などのフェノール類や、フェノール酸およびそのエステルが主成分であるが、CAPE はポプラ型プロポリスに含まれる代表的な化合物である。抗炎症性や抗腫瘍活性のほか、神経細胞の分化誘導作用などの報告がある。

(P572)

プレシジョン栄養学 [precision nutrition] 個人の遺伝的背景、生活習慣や生活環境、健康状態や病歴、生化学・生理学的データ、腸内細菌叢等のさまざまな情報を網羅的に解析することにより、その個人の将来の健康状態や疾患の発症等を事前に予測し、健康維持のために最適な栄養学を提案、実践すること。「precision nutrition (プレシジョン栄養学)」は、米国のオバマ大統領が 2015 年の一般教書演説の中で用いた「precision medicine (プレシジョン医学; 個人差を考慮した医療)」から派生した用語である。従来の栄養学は対象者を 1 つの集団として捉え、集団に属する個人の差についてはほとんど注意を払ってこなかった。1990 年以降のヒトゲノムプロジェクトにより遺伝子多型が注目されると、主に遺伝的要因を考慮した栄養学として「テーラーメイド栄養学」の必要性が提唱された。さらに、近年の網羅的解析 (オミクス解析) 技術と人工知能による情報解析技術の目覚ましい発展によって、膨大なデータを処理することが可能になり、プレシジョン栄養学の実践と社会実装の試みが始まっている。

(P247)

個人対応型栄養学 [personalized nutrition] = プレシジョン栄養学

(P262)

最適栄養学 [precision nutrition] = プレシジョン栄養学

(P368)

精密栄養学 [precision nutrition] = プレシジョン栄養学

(P437)

テーラーメイド栄養学 [tailored nutrition] = プレシジョン栄養学

2) 削除用語

(P437)

テーラーメイド栄養 [tailormade nutrition] 個々人に応じた栄養・食事管理をすること。現在では、生活習慣病に遺伝が関与していることが明らかになっている。また、環境要因が遺伝子の発現に影響すること（エピジェネティクス）も明らかになりつつある。そのため、個人の身体の状況や栄養状態のみならず、遺伝子情報や環境要因も考慮に入れると、より効果的な栄養指導を行うことができる。

3) 修正用語

(P2)

亜鉛酵素 [zinc enzyme] 活性中心に亜鉛を含む金属酵素。代表的なものとして、~~炭酸デヒドラーゼ、~~カルボニックアンヒドラーゼ、カルボキシペプチダーゼ A、アルコールデヒドロゲナーゼ、アルカリホスファターゼ、マトリックスメタロプロテアーゼ、~~スーパーオキシドジスムターゼ、~~DNA ポリメラーゼ、RNA ポリメラーゼ などが挙げられる等である。